

第6章 特別活動

1 改定のポイント

(1) 改訂の趣旨

これまでの特別活動の「成果」	さらなる充実が期待される今後の「課題」
児童が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。協働性や異質のものを認め合う土壌を育むなど、生活集団、学習集団として機能するための基盤となるとともに、集団への所属感、連帯感を育んできた。	「身に付けるべき資質は何か、どのような学習過程を経ることにより、資質・能力の向上につなげるのか」ということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきたという実態もみられる。



改訂の基本的な方向性
◇ 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つを、指導する上での重要な視点を手掛かりとして、これまでの目標を整理 ◇ 「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」を通して育成すべき資質・能力を三つの視点を踏まえ、明確化

(2) 改訂の要点

① 目標の改善

【特別活動の目標】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

⇒「知識及び技能」

- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。

⇒「思考力、判断力、表現力等」

- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。⇒「学びに向かう力、人間性等」

◆ 手掛かりとなる三つの視点 = 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」

人間関係形成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点 ○ 年齢や性別等の属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係 ○ 学習過程全体を通して、「個人対個人」、「個人と集団」という関係性の中で育まれる
社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点 ○ 学校＝小さな社会であり、学級や学校の集団をよりよくするために参画することと、社会をよりよくするために参画することは、同じ視点 ○ 集団の中で、自発的・自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるもの
自己実現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点 ○ 自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力 ○ 集団の中において、共通して当面する課題を考察する中で育まれるもの

☆この三つの視点は、特別活動において育成する資質・能力における重要な要素であり、また同時に、これらの資質・能力を育成する学習の過程においても重要な意味を持つ

☆三つの視点は、相互に関わり合っていて、明確に区別されるものではない

◆ 特別活動の特質に応じた『見方・考え方』とは

特別活動の特質に応じた『見方・考え方』 = 「集団や社会の形成者としての見方・考え方」
○ 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に向けた実践に結びつけること

◆学習の過程が大切！

<p>「様々な集団に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」資質・能力の育成を目指す。</p>	
<p>様々な集団</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や構成が異なる様々な集団での活動を通して、自分や他者のよさや可能性に気づいたり、それを発揮したりすることができるようになる ○学級活動＝身近で基礎的な、生活を共にする集団活動 ⇒ 職場や家族につながる 児童会活動＝自治的な集団活動 ⇒ 地域社会における自治的な活動につながる クラブ活動＝同好の児童から構成される異年齢集団 ⇒ 地域社会におけるサークル活動や同好会につながる 学校行事＝大きな集団において、一つの目的のもとに行われる様々な活動の総体
<p>自主的、実践的に取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学級や学校の生活をよりよくするための活動に全ての児童が取り組むことを通して、そのよさ、大切さを一人一人が実感を伴って理解することが大切
<p>互いの良さや可能性を発揮しながら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりを尊重し、児童が互いのよさや可能性を発揮し、生かし、伸ばし合うなど、よりよく成長し合えるような集団として展開 ○児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担して協力するといった活動を展開する中で、所属感や連帯感、互いの心理的な結びつきなどが結果として自然に培われるようにする
<p>集団や自己の生活上の課題を解決する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な集団活動を通して集団や個人の課題を見いだし、解決するための方法や内容を話し合っ、合意形成や意思決定をすするとともに、それを協働して成し遂げたり強い意志をもって実現したりする ○次なる課題解決に向かうことの大切さに気付いたり、その方法や手順を体得できるようにすることが求められる

◆特別活動で育成を目指す資質・能力は？

<p>知識及び技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの進め方、よりよい合意形成や意思決定の方法、集団活動における役割分担の方法などの理解 ○より良い人間関係とはどのようなものなのか、合意形成や意思決定とはどういうことなのかという本質的な理解 ○集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには何が必要になるのかという理解 ○集団でなくては成し遂げられないこと、集団で行うからこそ得られる達成感があること、集団と個の関係についての理解 ○集団活動のよさ、社会の中で果たしている役割、自己の在り方や生き方との関連で集団活動の価値の理解 ○現在及び将来の自己の課題との関連における学習の意義の理解、課題解決に向けて意思決定し、行動することの意義の理解 ○将来、自立した生活を営むことと現在の学校での学習がどのように関わるかということの理解、など
<p>思考力、判断力、表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係をよりよく構築していくために、様々な場面で、自分自身及び自分と違う考えや立場にある多様な他者と互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、進んでコミュニケーションを図ったり、協働したりしていく ○集団をよりよいものにし、社会に主体的に参画したりしていくために、自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組む ○現在及び将来に向けた自己実現のために、自己のよさや可能性を発揮し、置かれている状況を理解し、それを生かす意思決定することや、情報を収集・整理し、興味・関心、個性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成すること、など
<p>学びに向かう力、人間性等 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度 ○集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくろうとする態度 ○日常の生活や自己の在り方を主体的に改善しようとし、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとする態度、等

☆特別活動で学んだことを人生や社会での在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身につけたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになることが重要

◆特別活動における「主体的・対話的で深い学び」とは？

主体的な学び	○学ぶことに興味関心を持ち、学校生活に起因する諸課題の改善・解消やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながらかみ通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取組
対話的な学び	○児童相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えることを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていく ○話し合いを通して他者の様々な意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりする
深い学び	○各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりする ○「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉える ○それぞれの学習過程において、どのような資質・能力を育もうとするのかを明確にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが、「深い学び」の実現につながる

②内容構成の改善

学級活動	○「(3)キャリア形成と自己実現」を設け、キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりを明確になるようにした
------	---

③内容の改善・充実

学級活動	○「(1)学級や学校の生活づくりへの参画」 → 集団としての合意形成 「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」 「(3)一人ひとりのキャリア形成と自己実現」 } 一人ひとりの意思決定 ○総則に「特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要」と明記された
児童会活動	○児童が主体的に組織をつくる ○運営や計画は主として高学年の児童が行うが、学校の全児童が主体的に参加できるよう配慮 ○児童会活動では異年齢集団交流を、生徒会活動ではボランティア等の社会参画を重視
クラブ活動	○同好・異年齢の集団→児童が計画を立てて役割分担し、協力して楽しく活動
学校行事	○小学校では自然の中での集団宿泊活動を、中学校では職場体験等の体験活動を重視

2 指導計画作成上の留意点

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

①特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画の作成

- 学校の創意工夫を生かす
- 学級や学校の実態や児童の発達の段階などを考慮する
- 各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る
- 児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにする
- 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する
- 特別活動の授業時間数について適切な全体計画を作成する

②学級経営の充実と児童指導との関連

- 学級には多様な児童がいることを前提に、学級での児童との人間的な触れ合い、きめ細かい観察や面接、保護者との対話も含め、一人ひとりの児童を客観的かつ総合的に理解していく
- 学級経営と児童指導の関連を図った学級活動の充実が、いじめの未然防止の観点からも重要

③幼児教育との接続及び関連

- 生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、幼児期の学びの特性を踏まえながら、小学校教育へ円滑につないでいくことが重要であり、そのための教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが考えられる

④障がいのある児童など学習の困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫

- 相手の気持ちを察したり理解することが苦手な児童には、他者の心情等を理解しやすいように、役割を後退して相手の気持ちを考えて、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えることや、「イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れるなどの配慮をする
- 話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合には、発言するタイミングが理解できるように、事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの回り方についての指導をする、 など

3 内容の取扱いについての配慮事項

(1) 指導計画の作成に当たっての配慮事項

①児童の自発的、自治的な活動の効果的な展開

- 学級活動の「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」、児童会活動、クラブ活動
＝児童の自発的、自治的な活動を特質としている内容
- 「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」「(3)一人ひとりのキャリア形成と自己実現」
＝教師の指導を中心とした児童の自主的、実践的活動を特質としている内容
- 自分たちで決まりをつくって守る活動の充実
※特定の児童が非難されたり、一部の児童に有利な決まりが決定されたりすることがないよう配慮
※決まりを守ることの大切さや、様々な理由で決まりを守れない状況が生まれる場合もあること、それを温かく認めることも時には必要であることに気づくことができるようにしていくことが大切

②ガイダンスとカウンセリングの趣旨を踏まえた指導

- 「主に集団の場面で必要な指導や援助を行う「ガイダンス」と、一人ひとりが抱える課題に個別に対応した指導を行う「カウンセリング」の双方により、生徒の発達を支援すること
＝生徒の行動や意識の変容を促し、一人一人の発達を促す働きかけとしての両輪と捉えることが大切

③異年齢集団や幼児、高齢者、障がいのある人々や幼児児童との交流等を通して、協働することや社会に貢献することの喜びを得る活動の重視

4 入学式や卒業式などにおける、国旗及び国歌の取扱い

- 入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする

5 Q & A

Q 1 特別活動の指導過程の例は？

- 例えば、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」では次のような指導過程が考えられます。

「問題の発見・確認」 ⇒ 「話し合い～合意形成」 ⇒ 「実践～振り返り」

- また、学級活動(2)「日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」や(3)「一人ひとりのキャリア形成と自己実現」では次のような指導過程が考えられます。

「問題の発見・確認」 ⇒ 「話し合い～意思決定」 ⇒ 「実践～振り返り」

Q 2 特別活動における評価において、大切なことは？

- 特別活動の評価において、もっとも大切なことは、児童一人ひとりのよさや可能性を積極的に認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、自らを律しつつ他人とともに協調できる豊かな人間性や社会性など生きる力を育成するという視点から評価を進めていくということです。活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。